

3. 履修登録

修士課程2年間で履修する科目は、1年次に一括登録します。

指導教員と相談の上、専攻分野の論文作成等に必要科目の履修計画にそって、指定の期日までに履修登録を行ってください。

なお、履修登録には指導教員の承認(署名・捺印)が必要です。

提出時期は以下の通りです。

◎1年次/4月下旬（日時の詳細は別途指定）

4. 研究構想発表会，研究計画書の提出，中間報告会および公開最終発表会

研究構想発表会

研究テーマおよび研究計画の設定に関する中間発表として、1年次の6月、11月（予定）に「研究構想発表会」を実施します。発表を希望する学生は、5月、10月（発表会の概ね1～2カ月前：期日は別途案内）までに「研究構想発表会申込用紙（別途指定様式）」を記入の上、リハビリテーション科学課へ提出してください。

〔開催日〕 2025年6月、11月

〔場 所〕 北海道医療大学当別キャンパスまたは札幌サテライトキャンパス

〔参加者〕 修士課程学生および本学リハビリテーション科学研究科教員は原則として参加する。また本発表会は公開方式にて開催とする。

〔内 容〕 研究テーマおよび研究課題（動機、背景、研究方法などを含む）の設定に関する報告と意見交換

*なお、実施の詳細については、別途お知らせします。

研究計画書の提出および審査

研究構想発表会終了後、「研究計画書」を提出します。

研究計画書は、研究構想発表会終了後随時受付することとし、2年次の4月（提出期日は別途案内）までに「研究計画書」および「研究計画書指導申込書」を指定様式により、リハビリテーション科学課へ提出してください。

〔期 限〕 研究構想発表会終了後～2026年4月（日時の詳細は別途指定）

〔内 容〕 研究テーマおよび研究課題（動機、背景、研究方法などを含む）の設定に関する報告とその審査

*なお、実施の詳細については、別途お知らせします。

中間報告会

承認された修士論文研究計画書、研究倫理に基づいて開始された研究課題について、研究の進捗状況を確認するとともに、研究指導教員以外の教員からも論文作成に向けた助言・指導を受けるため、1年次の2月、2年次の9月（予定）に「中間報告会」を実施します。発表を希望する学生は、12月、7月（発表会の概ね1～2カ月前：詳細な期日は別途案内）に「中間報告会申込用紙（別途指定様式）」と、倫理審査を申請した研究に関しては「研究倫理に対する確認書」を、リハビリテーション科学課へ提出してください。

〔開催日〕 2026年2月、9月

〔場 所〕 北海道医療大学当別キャンパスまたは札幌サテライトキャンパス

〔参加者〕 修士課程学生および本学リハビリテーション科学研究科教員は原則として参加する。また本発表会は公開方式にて開催とする。

〔内 容〕 研究課題の進捗状況の報告および意見交換を行う。

*なお、実施の詳細については、別途お知らせします。

公開最終発表会（修士論文発表会）

修士学位論文を提出し、審査委員会による審査を終了した研究課題について、公開にて最終発表会を行います。修了予定者は必ず発表してください。

〔開催日〕 2027年2月

〔場 所〕 北海道医療大学当別キャンパスまたは札幌サテライトキャンパス

〔参加者〕 修士課程学生および本学リハビリテーション科学研究科教員は原則として参加する。また本発表会は公開方式にて開催とする。

〔目 的〕 完成した修士学位論文の最終発表を行う。

*なお、実施の詳細については、別途お知らせします。

5. 修士学位申請手続き

1) 配付書類

- (1) 学位論文審査願
- (2) 履歴書

2) 書類作成

「学位論文審査願」および「履歴書」を新たに作成する場合は、所定の様式に従ってください。（様式の変更は認めません。）

「学位論文審査願」には、指導教員の署名・押印〔指導教員承認欄〕を必ず受けてください。上記の署名・押印がないものは、受理できません。

この場合、学位申請が認められないので留意してください。

3) 提出書類

- | | |
|-------------|------|
| (1) 学位論文審査願 | 1 通 |
| (2) 学位論文 | 4 部※ |
| (3) 学位論文要旨 | 4 部※ |
| (4) 履歴書 | 1 通 |

※学位論文の提出部数は、正本(原本)1部、審査用(審査委員/主査1, 副査2)3部、計4部です。但し、副査の人数が2名を超える場合には、人数に応じて増部となります。

4) 提出期限および提出先

- (1) 提出期限: 中間報告会後～11月中旬(日時の詳細は教務日程参照)
- (2) 提出場所: リハビリテーション科学課

5) 学位論文の一部修正

提出後の学位論文の一部修正は、審査委員(主査・副査)の指導に基づき以下の通りの取り扱いとなります。なお、論文提出者が任意に論文の修正・差し替えを行えるものではありませんので、留意してください。

(1) **修正前後の対照表(正誤表形式)**を作成し、リハビリテーション科学課に提出。

- ・提出期限: 2027年2月上旬(日時の詳細は審査委員より別途指定)
- ・提出部数: 対照表(正誤表形式)、修正を反映した学位論文(PDFデータ提出)

(2) **本文・資料等、全ての修正を完了した最終版の論文一式**をリハビリテーション科学課に提出。

- ・提出期間: 「修士論文発表会(公開最終発表会)」終了後から学位記授与式当日までにPDFデータ提出

***そのほか、修正の詳細は審査委員(主査・副査)の指導による。**

6) 面接審査・最終試験

面接審査・最終試験の日程・場所等については、審査委員より別途指示されます。

7) 学位論文審査結果

学位授与認定者については、審査結果を3月上旬に本人宛文書にて通知します。

8) 修士論文発表会(公開最終発表会)

学位申請者を発表者として、研究発表会を実施します。なお、実施要領等詳細については、別途通知されます。

6. 修士学位論文の作成様式

修士学位論文の作成様式については、次のとおり取り扱うこととする。

1) 論文要旨

(1) 論文要旨の様式については、「様式1. 論文要旨様式」に従う。

(2) 本文の字数は1,600字程度とする。

※「7. 修士学位論文作成マニュアル」の4)(2)要旨(和文:400字以内,英文:200~250語)とは、別に作成するものです。

2) 学位論文

(1) A4版(縦置き,横書き)に記し,A4版のフラットファイル(縦型,左横綴じ)に綴じる。

(2) 学位論文表紙の論文題目は,日本語表記とともにその英語表記を付す(様式2. 学位論文・題目表紙様式)。

(3) ファイルの表紙には論文題目(日本語表記),研究科名,分野名,氏名を記し,背表紙には論文題目(日本語表記)と氏名を記す(様式3. フラットファイル表紙・背表紙様式)。

(4) 論文の体裁は,「7. 学位論文作成マニュアル」に従う。

7. 修士学位論文作成マニュアル

北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科における学位論文作成に関する手引きとして、以下に要点を示す。

1) 用紙設定

用紙サイズは A4 版（幅 210mm，高さ 297mm）とする。

2) 本文の設定

- (1) 縦置き横書き。
- (2) 40 字×30 行（1200 字）。
- (3) 文字フォント 日本語（MS 明朝），英数字（Times）標準，10. 5 ポイント。
数字，アルファベットは半角。
- (4) 余白 上下左右 30 mm.

3) 製本の形態

- (1) 左綴じ・片面印刷。
- (2) 表紙は指定の様式を使用する。
- (3) フラットファイルに綴じる。
- (4) 保存公開のための製本については，別途統一した仕様とする。

4) 論文の構成

- (1) 題目表紙（指定様式）
- (2) 要旨（和文：400 字以内，英文：200～250 語）
- (3) キーワード（5 つまで）
- (4) 目次（目次，表目次，図目次，付録目次）
- (5) 略語
- (6) 本文

序論（序，諸言，はじめになど），方法，結果，考察，結論（結語，結び，おわりになど）が明らかになるように書く。

(7) 謝辞

唯一個人的な内容を記入することが出来る箇所である。指導教員や仲間，家族などに対する感謝の意などを記す。

(8) 引用文献

ア．引用・転載について

論文作成にあたっては，著作権についての配慮を行う。論文中に他の著作物からの引用を行うときには，その出典を明記する。また，引用の範囲を超えた「転載」には，著作権者やその著作物の出版社の許諾が必要である。論文が掲載されるために必要となる「転載」についての手続きは，筆者が責任を持つ。

イ．文献の記載様式

文献は，本文中での引用順に記載し，通し番号をふる。本文中の引用箇所には

上付き数字で文献番号 (1, 2, 1-3) を記す。文献の省略名は原則として **Index Medicus** に従い、引用文献の全著者名を記載する。和文誌の引用については、略語は使用しない。

(9) 図・表

ア. 図・写真は、鮮明でそのまま製版できるものを準備する。カラー印刷を希望する場合は、各自の責任を持って印刷する。

イ. 図・表は、それぞれを A4 版 1 枚に印刷する。

ウ. 図・表のすべてに表題（表は上に、図は下につける）を記し、適切な説明をつける。

(10) 付録

ア. **appendix** として、付記する資料を巻末に整理する。

イ. 本文と同様の要領でフッターを作成する。目次にはページ番号をつけずに付録の最初の頁より 1 を付し、付録の最後のページを最終とする。

5) 本文中の文献引用

本文中に文献を引用する場合は、以下のように示す。

示し方・例示

●雑誌

論文全著者名（発行西暦）. 論文タイトル. 雑誌名, 巻(号)数, 頁-頁.

和文献

例) 秋庭保夫, 石田暉, 村上恵一, 相沢茂, 生腰喬二 (1994). 上部脊髄損傷患者の消化管合併症に対する消化管機能検査と内視鏡検査による検討. リハビリテーション医学, 31(3), 178-183.

欧文献

- 人名は、姓、名、ミドルネームの順に記載する。姓の後に半角スペースを取り、名とミドルネームはイニシャルにし、各々半角スペースをあける。
- 論文タイトルとサブタイトルは、最初の文字のみ大文字にする。

例) Kreutzer J S, Marwitz J H, Seel R, Serio D (1996). Validation of a neurobehavioral functioning inventory for adults with traumatic brain injury. Arch Phys Med Rehabil, 77(3), 116-124.

●書籍

書籍著者名または編集者（発行西暦）. 書籍タイトル. 出版地：出版社, 引用頁.

和文献

例) 中村隆一, 斉藤宏 (1987). 基礎運動学 第3版. 東京：医歯薬出, 85-102.

欧文献

例) Downey J A, Myers S J, Gonzalez E G (1994). The physiological basis of rehabilitation medicine. 2nd Ed, Boston: Butterworth-Heinemann, 12-35.

●書籍の章（一部）

章担当著者名（発行西暦）. 章のタイトル. 編集者名(編), 書籍のタイトル (章の該当

頁). 出版地: 出版社.

和文献

例) 米倉豊子 (1978). 内科的疾患に対する作業療法. 原武郎, 鈴木明子 (編), 作業療法各論 (393-406). 東京: 医歯薬出版.

欧文献

- 欧文の場合は, 編集者の前に *In* (イタリック体) を書く.
- 編集者名の後に (Ed.) をつけ, 複数の編集者がいる場合には (Eds.) とする.

例) Liu M, Ishigami S (1996). Toward future research. *In* Chino N, Melvin J L (Eds.), Functional evaluation of stroke patients (125-142). Tokyo: Springer Verlag.

● 翻訳書

原著者名 (原著発行西暦). 原著タイトル. 原著出版地: 原著出版社. [翻訳者名. 翻訳書タイトル. 翻訳出版地: 翻訳出版社, (翻訳発行西暦), 引用頁.]

例) Andreasen N C (1984). The broken brain; The biological revolution in psychiatry. Tokyo: Harper & Row. [岡崎祐士, 安西信雄, 斎藤治, 福田正人訳. 故障した脳 脳から心の病をみる. 東京: 紀伊国屋書店, (1986), 15-27.]

● 電子資料 (インターネットからの引用)

作者名 (発行西暦). 著作物のタイトル, [ソースから検索した年月日], <アドレス>

- 発行西暦は, 引用する資料や論文等が作成された年 (月日) が明示されている場合に記載する.
- Web ページは削除されることがあるので, 資料は印字して保存しておくこと.

例) 内閣府自殺対策推進室 (2013). 警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等. [March 4, 2013], < <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/pdf/saishin.pdf>. >

6) 文章表現

- (1) 現代かなづかいを用い, 日本語は全角文字, 英語は半角文字と半角スペースを用いる. 数字は算用数字 (半角) を用いる. 数量は国際単位系 (SI 単位) 記号を用いる (例; m, cm, mm, ml, kg, cm² など).
- (2) 外国人の人名には原語を用いる.
- (3) 原則として日本語の学術用語は「日本医学会医学用語辞典 (日本医学会)」 「リハビリテーション医学用語集 (日本リハビリテーション医学会)」に, 英語は Index Medicus に従う.
- (4) 句読点は「,」「.」を用いる.

7) 見出しとフッター

- (1) 見出しは, I - 1 - 1) - (1) の順に細分化させる.
- (2) フッターは, 下中央にページ番号を記す. 目次にはページ番号をつけず, 本文の最初の頁より 1 を付し, 文献の最後のページを最終とする.

様式 1. 論文要旨様式

要旨本文の文字数は、1,600 字程度とする。

**20XX 年度 リハビリテーション科学研究科修士課程学位論文要旨
(中央揃え, MS ゴシック, ボールド, 12 ポイント)**

(中央揃え, MS 明朝, 10.5 ポイント)

学位論文題名

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ~○○○○○○○○○○○○○○○○~

○○○○○○分野

学籍番号: ○○○○○○ 氏名: ○○○○ (指導教員: ○○○○教授)

(以下, 横 50 字×縦 44 行, MS 明朝, 10 ポイント)

【序論】

○○○

【目的】

○○○

【方法】

○○○

【結果】

○○○

【考察】

○○○

【結論】

○○○

<備考>

※用紙は A4 判の上質紙とする。

※余白は上下 15 mm, 左右 15 mmとする。

上記を見本とし, 大幅に逸脱することがないように作成すること。

様式 2. 学位論文・題目表紙様式

論文題目（日本語表記，中央揃え，MS 明朝，14 ポイント）
○○○・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

論文題目（英語表記，中央揃え，Times，12 ポイント）
○○○・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

（中央揃え，MS 明朝，12 ポイント）
20XX 年度
北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科
リハビリテーション科学専攻
○○分野 氏名○○○○

<備考>

※用紙は A4 判の上質紙とする。

※余白は上下 70 mm，左右 30 mmとする。

上記を見本とし，大幅に逸脱することがないように作成すること。

様式 3. フラットファイル表紙・背表紙様式

下記の要領で表紙・上部，表紙・下部，背表紙を作成しフラットファイルに貼付ける。

・フラットファイル表紙・上部（横 136 mm，縦 38 mm）

（日本語表記，中央揃え，MS 明朝，14 ポイント） 論文題目 ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

・フラットファイル表紙・下部（横 136 mm，縦 38 mm）

（中央揃え，MS 明朝，12 ポイント） 20XX 年度 北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 ○○分野 氏名○○○○
--

・フラットファイル・背表紙（横 10 mm，縦 230 mm：MS 明朝，12 ポイント）

論 文 題 目 x x x x x x の 考 察 氏 名 医 療 大 吉

8. 修士学位論文の審査基準・評価方法

審査基準

- 1) 当該研究領域における既存の研究背景の理解
 - ・ 先行研究や関連研究に関する情報収集が充分行われている
 - ・ 先行研究や関連研究の理解が適切に行われている
 - ・ 明確な問題意識・問題設定が提示されている
- 2) 研究の目的・課題の明確性およびオリジナリティ
 - ・ 研究の目的および取り組むべき課題が明確に提示されている
 - 設定した課題が、当該研究領域において充分な独創性（オリジナリティ）、新規性および社会的有用性を有している
- 3) 適切な研究方法の設定
 - ・ 研究課題に対して適切な研究方法（調査方法、実験方法、論証方法、データの解析など）が採用・実行されている
 - ・ 収集した資料やデータの取り扱いが適切である
 - ・ 研究対象について充分な倫理的配慮がなされている
- 4) 適切な研究結果の提示
 - ・ 研究方法に基づいた分析結果が適切に提示されている
 - ・ 図表の構成が適切である
- 5) 事実（研究結果）に基づいた考察
 - ・ 分析結果の解釈が妥当である
 - ・ 事実（研究結果）に基づき、適切な考察がなされている
 - ・ 過大な推論を展開していない
- 6) 一貫した論理展開の提示
 - ・ 研究課題に対して一貫した論理展開がなされ、明確な結論が導出されている
- 7) 体裁
 - ・ 論文が規定の様式に沿っている
 - ・ 先行研究や関連研究の引用が適切になされている
 - ・ 注記等が適切に提示されている

評価方法

- 1) 上記の審査基準を基に、修士論文を以下の4段階で評価する。
 - A：優れた論文である
 - B：おおむね良好な論文である
 - C：不十分な点はあるが、修士論文として認定しうる
 - D：修士論文としての水準に到達していない
- 2) 主査（1名）、副査（2名以上）が別々に評価を行い、その結果を主査に提出する。
- 3) 主査はこれを参考に「学位論文審査並びに最終試験結果報告書」を作成する。